

2023年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第7大会（第13戦／第14戦） 参戦レポート

11月4日（土）～5日（日）、モビリティリゾートもてぎロードコース（栃木県）で2023年FIA-F4選手権シリーズ第7大会（第13戦、第14戦）が開催されました。HFDP（ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト）からは#5三井優介（2002年04月21日生まれ。21歳）、#6野村勇斗（2005年11月12日生まれ。17歳）、#7森山冬星（2003年1月10日生まれ。20歳）の3人が参戦しました。

三井、ランキング3位でシーズンを締めくくる

■公式予選（30分間）：天候/曇り 路面/ウェット～ドライ



2日（木）～3日（金）のトレーニング走行はドライコンディションでしたが4日（土）朝、もてぎには濃霧がたちこめて視界不良となりました。午前8時から開始予定だった公式予選はコースオープンが30分延期され、当初A組B組2組に分け20分間ずつ行われる予定だった計時は、参加40台全車がコースインして30分間で行い、ベストタイムで第13戦、セカンドベストタイムで第14戦のスターティンググリッドを決定することになりました。

木曜の練習走行では#6野村がトップ、#5三井が2番手、#7森山が4番手のタイムを記録して好調でしたが、金曜日の練習走行では3車ともタイムが伸び悩み、公式予選セッションが始まってからも状況は変わりませんでした。前日からシフトチェンジに関わるトラブルが発生していた#6野村は、ギヤが4速から3速に落ちないことがある状況のまま、シフトチェンジを工夫しながらタイムアタックに入り、最終的には第13戦で4番手、第14戦で8番手となるラップタイムを記録しました。

#7森山は、走行途中でタイヤの内圧が上がりすぎているのではないかと考え、セッション途中でピットイン、内圧を下げてタイムアタックを再開、ペースを上げて第13戦で12番手、第14戦で11番手になるタイムを記録しました。



シリーズチャンピオンをかけて最終大会に臨んだ#5三井は、予選セッションに向けてダウンフォースをわずかに減らしトップスピードを稼ぐセッティングを選んでタイムアタックに入りましたがグリップ不足を感じてタイムは伸び悩みました。#5三井はコンディションの好転を待ちながら周回を重ね30分のセッションを走り切りましたがタイムは最後まで伸びず、スターティンググリッドは第13戦で14番手、第14戦で15番手と大きく沈み込んでしまいました。

第13戦公式予選結果

予選4位 #6 野村 勇斗 1分58秒973 (4番手スタート)
予選12位 #7 森山 冬星 1分59秒351 (12番手スタート)
予選14位 #5 三井 優介 1分59秒520 (14番手スタート)

第14戦公式予選結果 (タイムアタックのセカンドベストタイム順に決定)

予選8位 #6 野村 勇斗 1分59秒197 (8番手スタート)
予選11位 #7 森山 冬星 1分59秒414 (11番手スタート)
予選15位 #5 三井 優介 1分59秒721 (15番手スタート)

■第13戦決勝レース (13周) : 天候/曇り



4日(土)午後1時14分、雲間から薄日が射すコンディションでシリーズ第13戦のスタートが切られました。4番手の#6 野村はうまくスタートで加速し1コーナーに向けて3番手を狙いインに飛び込もうとしますがならず、4番手でレースを始めました。その後方集団の中で混乱が発生し、オープニングラップのうちにセーフティーカー(SC)が介入しました。この時点で#7 森山は12番手、#5 三井は13番手につけていました。

4周目からレースが再開されました。#5 三井はうまくスタートで加速し

5コーナーで#7 森山ともう1台をオーバーテイクして11番手へ進出しました。また、4番手の#6 野村は、前日からのシフトトラブルが完治していないまま3番手の選手に迫り、6周目の5コーナーではいったん前へ出ますが軽く接触、その後V字コーナー手前で抜き返されて4番手のポジションに戻りました。



11番手の#5 三井はペースに乗り前をうかがいますがオーバーテイクには至らず、4番手の#6 野村は激しく3番手争いを展開しましたがシフトトラブルを抱えていることもあり7周目の1コーナーでは逆に後続のオーバーテイクを許して5番手へ後退しました。3番手から12番手の#7 森山までは大きな集団を作って争い始めました。



9周目、コースアウト車両が生じたため2回目のSCが介入しました。この時点で#6は5番手、#5 三井は11番手、#7 森山は12番手につけていました。11周目、レースは再開されましたが、再スタートの直前、5番手の#6 野村はギヤがニュートラルに入って固着してしまったため走行不能となり、ヘアピン手前で自らコースから外れてマシンを停止、レースを終えました。これにより#5 三井は10番手、#7 森山は11番手へ繰り上がりました。

前方集団が接触スレスレの格闘をしていたため、#5 三井も#7 森山も思い切った勝負に出ることはできず、残り3周では順位を変えられないままチェッカーフラッグを受けることになりました。

【FIA-F4 選手権シリーズ第13戦・レース結果】

#5 三井 優介 決勝10位 (30分42秒463 ベストタイム 1分59秒671)

#7 森山 冬星 決勝11位 (30分42秒749 ベストタイム 1分59秒784)

#6 野村 勇斗 決勝9周リタイア (21分19秒599 ベストタイム 1分59秒340)

■第14戦決勝レース (13周) : 天候/晴れ



5日(日)午前8時20分、晴れ渡った秋空の下、シリーズの締めくくりとなる第14戦決勝レースが始まりました。#6 野村のマシンに前日まで続いていた原因不明のシフトトラブルを解決するため、チームはギヤボックス交換に踏み切り、前夜作業を進めて朝のレースに間に合わせました。

スタート合図の瞬間、16番手グリッドにいた#5 三井は絶妙のスタート加速を見せ前へ迫りました。すると、11番手からスタートし1コーナー進入時アウト側からアプローチした#7 森山が、内側で減速しきれなかった選手に押し出される形になった選手から接触を受け、右リアサスペンションを壊してコースオフ、走行不能となるアクシデントが発生してSCが介入しました。この時点で#6 野村は8番手、#5 三井は一気に6つポジションを上げ9番手へ順位を上げていました。



レースは3周目から再開され、8番手の#6 野村は5コーナーでうまくオー

バーテイクをして7番手、5周目には6番手へ順位を上げましたが、#5 三井は前を塞がれペースも上がらず9番手のポジションから抜け出せなくなりました。その後#6 野村、#5 三井とも1つずつポジションを上げて13周を走り切りレースを終えました。



#5 三井は第13戦で1点、第14戦で4点のシリーズポイントを加算しましたが、ランキングでは大会前の2番手から後退してランキング3位、#6 野村は4位、#7 森山は5位でシリーズを終えました。

【FIA-F4 選手権シリーズ第14戦・レース結果】

#6 野村 勇斗 決勝5位 (27分35秒145 ベストタイム 1分58秒912)

#5 三井 優介 決勝8位 (27分42秒151 ベストタイム 1分59秒597)

#7 森山 冬星 決勝0周リタイア

■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2023 シーズン終了時点)

3位 #5 三井 優介 181点

4位 #6 野村 勇斗 167点

5位 #7 森山 冬星 101点

(1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点)

■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2023 シーズン終了時点)

2位 HFDP 232点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント : #5 HFDP RACING 三井優介



練習1日目は良かったんですが2日目は良くなって、修正を加えて予選に臨んだところ、グリップが低い感じで、ちょっと厳しいと感じながらアタックしました。チームからは30分間プッシュし続けろと言われていたので走り続けましたが、途中でピットに入った野村選手と森山選手に対し、僕にはその発想がなく、タイムを伸ばすことができませんでした。

第13戦では、ペースが多少改善されたと感じましたが、前にどんどん追いつけるまでのペースではなかったため、ただただ目の前にいた車両とバトルして打ち勝ってポジションを上げたという感じで終わりました。

最終戦は今シーズン1番スタートダッシュをうまく決めることができました。クラッチミートも完璧で加速もうまくいきました。それで前に詰めていくと、1コーナーで3ワイド、4ワイドになっていたため、何か起きそうだなと思って、インにコースを取ったら案の定散らばったので、そのスキに大きくポジションアップできました。その後、1台パスしてSC後に前のクルマを抜きにかかろうと思ったんですが、そこから周囲のペースが上がっていくのに対して僕のペースはまったく上がらず、グリップがまったく上がらない状況になってしまいました。後半は多分後のクルマの方が速かったんですが、抜かれないように走って押さえ切りました。



シーズンを振り返ると、F4で2年目のチャンスをいただいて、ほんとにありがたい限りで、なんとしても良い結果で終わらせたかったんですが、こういう結果になってしまって悔しいです。今年の前半戦は、勝つことだけにフォーカスしていった結果、欲が出過ぎてミスをしてしまいました。チャンピオンシップ全体を考えて安定した走りをするという意識が足りませんでした。そういうことができていれば、問題なくチャンピオンになれたのにと残念です。ただ、結果を残すことができませんでした。自分の中では本当に勉強になったシーズンでした。

●ドライバーズコメント : #6 HFDP RACING 野村 勇斗



木曜日の練習の初日ではチームとしてもワンツーを獲れていて、調子良いと思ってたんですけど、金曜日から一気に戦況が変わってしまい、なおかつ4速から3速に落ちないというギヤトラブルも起きてしまいました。メカニック



さんが交換できるモノを全部交換してくれたんですけど、土曜日の予選でもまたトラブルが出ましたが、走り方を工夫して4位のファーストタイムを獲れました。セッションの途中でハンドルを換えたら直るかなと思ったんですが結局変わらず、色々試しながらタイムを出しました。もしトラブルなかったら考えると悔しいですけど、できることはできたかなとは思いますが。

第13戦の決勝レースでもずっとトラブルが出ていて、それでもなんとか走れて表彰台争いもできていたので、ギヤがニュートラルに入って動かなくなったので止まらなくてはいけなかったのが悔しいです。最終戦に向けてチームがギヤボックスを全部交換してくれて、少しは良くなったんですが、やはり

レースでは何回かシフトダウンできないことがありました。でも順位を上げて帰ってこられたので、自分としてはできることできたかなと思います。

フランスを含めればF4の2年目ということで、もちろんチャンピオンを目指していました。開幕戦でつまづいたものの、そこからは徐々に表彰台も連続して乗れて優勝することもできて、自分としても自信ができました。ほとんど初めてのコースでしたが、練習から良いタイムで走れたので自信に繋がりました。

●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING 森山 冬星



予選はタイムが出なくて、ちょっと様子を見てからピットに入って内圧下げたんですが、ちょっと手遅れでした。うまくやればトップ5までには入れたかなというくらいマシンのフィーリングには手応えがあったんです。内圧を下げて2周しかできなかったですけど、セクターでベストタイムを並べられましたから、当初から内圧をもっと下げていくべきでした。そこに

ついてはもっとチームとコミュニケーションを取った方が良かったと反省しています。トップの選手なら10分ぐらいで気付いてピットに戻って内圧を下げて順位を上げると思うのでそこがやっぱまだまだ課題ですし今後気をつけなければならない場所だなと思います。

第13戦のレースは、自分的にもペースは悪くなかったと思います。ちょっと前が連なりすぎてダウンフォースが抜けてしまったりはしましたが、それなりにオーバーテイクができたので良かったです。一方で前の集団が危なっかしい走りだったので守りに入らざるをえず、少しストレスの溜まるレースになりました。

第14戦では、僕は前にいたのでわからなかったんですけど、イン側のクルマが寄ってきて僕の右リアタイヤに当たってリタイヤせざるをえませんでした。僕には何もできませんでした。チームには本当に申し訳ないですし、自分としてもふがいないです。

1年振り返ると不完全燃焼に終わりました。1勝もできなかったのが悔しいです。僕としては今までが一番一生懸命頑張ったシーズンだったので、悔いがないと言えば嘘ですけど、頑張れたことについては満足しています。

